

第4回 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会 会議録

■日時 令和5年2月6日（月）10時00分～11時30分

■場所 市役所14階 14A会議室（オンライン併用）

■出席者（委員名簿順，敬称略）

【委員】 大森宣暁，林光武，山根健治，相澤美知子，岡地和男，小池恵一郎，駒場久，齋藤健壽，福田嘉男，野口進，富健治，富久田三千代

<オンライン参加>五艘みどり，桂木奈巳

※齋藤美和子委員は所用により欠席

【事務局】 都市整備部長，都市整備部次長，景観みどり課長，景観みどり課職員6名
（株）プレック研究所2名

■傍聴者 1名（報道機関0名）

■配付資料

次第

資料1 第3回宇都宮市緑の基本計画策定懇談会における主な委員意見への対応

資料2 （仮称）第3次宇都宮市緑の基本計画素案に関するパブリックコメントについて

資料3 第3次宇都宮市緑の基本計画（案）

資料4 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会提言書（案）

参考資料 第3次宇都宮市緑の基本計画 リーフレット案

■ 次第

1 開会

2 報告事項

（1）前回会議での意見と対応について

・事務局より，資料1に基づき，説明を行った

3 協議事項

（1）パブリックコメントの意見と対応について

・事務局より，資料2，資料3に基づき，説明を行った

（2）宇都宮市緑の基本計画策定懇談会提言書（案）について

・事務局より，資料4に基づき，説明を行った

4 その他

（1）リーフレットについて

・事務局より，参考資料に基づき，説明を行った

5 閉会

■発言要旨

2 報告事項 (1) 前回会議での意見と対応について	
意見なし	
3 協議事項 (1) パブリックコメントの意見と対応について	
岡地委員	パブリックコメントの件数が少ないと感じた。他計画と比べて意見の数はどうか。
事務局	計画によって様々であり、1件の場合もあれば、20～30件の場合もある。
岡地委員	昔から件数は多くないが、もう少しあっても良かったと思った。
岡地委員	No.1の意見について、若い世代は共働き世帯も増え、昔とライフスタイルが変わってきている。草むしり等が負担となるので、ほとんどの世帯が砂利を引いてしまっている。市街地の住宅街がそのような状態になってしまっていることを寂しく感じる。 齋藤委員のご専門と思うのでご意見を伺いたい。具体的な方法として、プランター等を活用し、樹木の選定や草むしりの苦労を減らしながら、うまく緑を配置して景観の向上も図るような取組はできないか。 また、このような取組を新築時に提案することができるとよいのではないか。 今の若い世代にとって、樹木の選定や草むしり等は大きな負担になると思う。ライフスタイルの変化に伴い、緑による景観形成をうまく調和させるような取り組みについて情報発信してみてもどうか。
齋藤委員	住宅地において、砂利敷や、人工芝の使用は、無機質で味気ないように感じる。例えば、風致地区の道路に面した場所では、特に規制が厳しく、周囲の景観に合わせた緑が多くみられる。 その他の場所でも、以前生垣への補助金制度を実施していたと聞いた。他の自治体でも生垣の長さにあわせて補助を行っている事例等がある。 緑を増やすために、このような方策も考えられるのではないか。
大森会長	維持管理に対する補助金はいいかもしれない。
事務局	本市でも、新築への記念樹贈呈をきっかけに木を植えてもらう、花と緑のまちづくり推進協議会で花苗を配布する等の取組を実施している。 頂いたご意見を踏まえ、緑の増加や維持管理に関する取組を検討していきたい。
富委員	ここ20年ほどで市民の志向が大きく変わってきていると思う。 大きな課題は教育であると考えている。プランター等をきれいに配置している学校もあるが、昔と比べると学校自体の緑が減った。また、教育の内容にも緑に関するものが少なくなっていると感じる。

	大人になってから緑に関する啓蒙をおこなっても、難しいと感じるため、子ども達の教育の場で、花を育てることの楽しさ、緑を増やすことの重要性、緑がいかに地球環境保全に貢献しているかといった要素を伝えることが重要だと思う。
富久田委員	学校に出前授業として、プランターへの植え付けや花壇の作り方を教える機会があるが、子どもたちはとても喜ぶ。学校においては、先生の時間が制限されている中で、緑に関する学習まで行うことは負担が大きいと聞いた。出前授業のような取組を利用していただいで、子どもに対して、花を身近なものとして捉えることができる機会を多く設けていただければと思う。
大森会長	教育に関しては、資料3のP79に、基本方針③に基づく施策として位置付けられているものかと思う。
事務局	会長にご発言いただいたとおり、緑の基本計画の中にも関連する施策を位置づけている。 これまでに、小学3年生を対象に、「みどりはともだち」という冊子や教本の作成・配布や、富久田委員にご発言いただいたような、学校へボランティアを派遣して、子どもたちと一緒に緑を植える活動をしている。 教育現場の大変さもあると思うが、こうした活動を増加していければと考えている。
岡地委員	教育に関連して、我々グリーントラストうつのみやでは、森林保全の中で子どもたちに森林のすばらしさを体験してもらっている。スタッフの人材不足等もあり、頻繁には実施できない状況である。 小さいころから自然と親しむ体験をしてもらうことが最も重要と思う。このような機会を今後増やしていけるよう、教育委員会等に対しても所管課や市民団体等からお願いをしていくことが必要となるかと思った。 なぜ緑が大切なのかを、現場に行って目で見て、肌で感じてもらうことが重要である。
山根委員	小学生までは体験の機会や参加するゆとりもあるが、中学生では緑に触れる機会がほとんどなくなってしまい、農業高校以外の高校生では皆無となってしまう。 宇都宮市で取り組むべきは中学校での緑の教育ではないか。 中学校はカリキュラムもタイトだが、そこをいかに緑や花の教育を取り入れられるかが課題である。 20代以降、年齢を重ねるとまた緑への親しみが増していき、60～70歳ごろにピークを迎えるかと思うが、中学・高校での緑とのふれあいの機会の落ち込みをどう抑えるかが重要である。
大森会長	ぜひ教育委員会へご意見いただければと思う。

桂木委員	<p>20歳前後の学生を対象とした現場で実感することとして、小さい頃自然が好きな人は、大人になってからも緑に対する抵抗がない。</p> <p>子どもと保護者に対する自然遊びの行事を、大学や環境学習センター等で実施している中で、保護者がポイントになっていると感じる。親が好きなことは子どもも好きになる傾向があり、親と一緒に緑を大切にすることを積み重ねると効果的かと思う。</p> <p>時間がかかり、即効性はない方法だが、緑を大切にしながら育った子どもが親となり、自身の子どもに対して緑を大切にすることを伝える、といったような循環をつくることができると理想的である。</p>
五艘委員	<p>理科の先生の興味・関心によるが、世田谷区の一部の中学校では、休日にベランダ等の狭い敷地に野菜をつくり、中学生に収穫体験をさせている。</p> <p>中学生になり、思春期で心がすさんでしまう子や、大人とのコミュニケーションがうまく取れない子にこのような機会をつくると、学校の運営もよくなるので、こうした取組をしていると先生方より伺った。緑を好きになるきっかけ作りにもなっている。収穫した野菜を家族とどのような料理をつくったのかをレポートとして提出する宿題が3か月に1回程度出される。</p> <p>中学校でもやろうと思えばできる取組であり、緑を好きになってもらう以外の教育的効果も非常に高いため、こうした取組について前向きに情報提供されると良いかと思う。</p> <p>パブリックコメントの、庭を砂利敷にするという状況について、世田谷区では農地が豊かな環境ではあるが、働いている世代は維持管理が面倒なため、戸建て住宅ではほとんど緑のスペースはない。その代わりに、市民農園が盛んで、庭付きの戸建て住宅を建てられるような土地がある地域でも、市民農園の倍率が90～100倍と大変高い。</p> <p>宇都宮では、土地があるから市民農園は不要というが、自宅には野菜を植える土地がないような方もいるため、本当にニーズがないのか気になっている。今度細やかに市民意見を吸い上げる機会があれば、市民農園に対するニーズも見えていただければと思う。</p>
冨委員	<p>子どもに感動を与えることが重要だと考える。</p> <p>子どもの頃、緑に対して感動する体験を全くしないまま中学生になり、いきなり強制的に緑を育てるようにと言っても拒否反応を示すこともあるかと思う。</p> <p>緑に関する教育においては、食物を育てて収穫して感動する、種から花を育てて花が咲くのを見て感動する、というような、緑を育てることが楽しい・嬉しいといった、感動する体験を小さい頃からいかに与えるかだと考える。</p>
事務局	<p>グリーントラストうつのみやでの収穫体験や、花と緑のまちづくり協議会の様々なイベントを実施しているが、こうした活動に参加される方は緑に対する意識が高い方だと思う。今後更に活動を広めていくことが重要と認識した。</p>

大森会長	生産緑地制度も導入されたので、これについても活用いただければと思う。
3 協議事項	
(2) 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会提言書（案）について	
林委員	提言4について、対象が樹林地・農地に限られた表現となっているが、市街地内の緑を含めた市内の緑全般に対して関心を持つ人を育てるべき、という表現ができるとうい。
岡地委員	提言4の樹林地・農地に関する部分は例示として、文章全体では市内の緑全般に触れるような文章構成としてはどうか。
林委員	岡地委員に提案いただいた修正方針で問題ない。
事務局	事務局としても、樹林地・農地は例示として捉えているため、ご意見いただいた通り、市内の緑全般を扱うものとして表現を修正する。
岡地委員	文章表現の整理は、大森会長と事務局へ一任する。
林委員	提言3について、「市民ニーズを捉えた公園づくりを進めていただきたい」とあり、行政が主体となる表現にとどまっているように感じる。 計画書本編 P76、基本方針2に基づく施策 F-②「地域ニーズをとらえた公園づくり」に、「整備後の維持管理や公園利用にあたっては、地域が関わることのできる仕組みづくりの検討」が記載されている。このように、整備後も市民が担い手として関わる公園の維持・利用のあり方に関する表現を提言内にも入れ込めるとよい。
事務局	ご指摘いただいた通り、市民が担い手として公園の維持や利活用へ関わる仕組みづくりを検討するという点は、今回計画の特徴でもある点であるため、提言内へ入れ込むよう修正する。
大森会長	いただいた意見を踏まえ事務局が提言書を修正し、懇談会を代表して会長から提言書を提出する。
4 その他	
(1) リーフレットの紹介	
山根委員	デザインも内容も良いと思う。ただし、若い世代への波及効果を考慮し、SNS を活用する工夫ができるとうい。 例えば、グリーントラストうつのみやや、花と緑のまちづくり協議会の Instagram の QR コードを前面へ配置し、リーフレットを開かずとも QR コードを読み込むだけで情報が得られるような状態があるとういのではないかと。

事務局	QR コードの配置について、再度検討する。
富久田委員	<p>緑の基本計画について、紙媒体の他に web による情報発信も実施されるかと思うが、その際配布しやすい状態としていただけるとよい。</p> <p>特に若い世代は、紙をもらっていない傾向が高いため、QR コードで読み取ると端末上でリーフレットを見ることができる等、紙媒体以外での情報発信があると、拡散もされやすいかと思う。</p>
山根委員	緑視率について、緑被率と同様に目標等も入れられるとよい。
事務局	まちなかでの緑視率を増加させることは次期計画の大きな課題であるため、全体のレイアウトを考慮しつつ緑視率の目標等を掲載するように修正する。
大森会長	今回が最後の懇談会となるため、委員のみなさまよりご感想を伺いたい。
各委員	一言挨拶（内容省略）
事務局	<p>昨年7月より4回にわたり、学識経験者のみなさまよりご緒言を、各団体代表者のみなさまからはそれぞれのお立場から緑との関わり方や課題などに関するご意見を、公募市民のみなさまからは市民の代表として貴重なご意見を賜った。これらのご意見を踏まえ第3次緑の基本計画がとりまとめに至ったことを御礼申し上げます。</p> <p>提言書にも記載の通り、スーパースマートシティの実現へ向けて緑が有する多様な機能が発揮されるよう、行政が他分野と連携しながら計画を実行していくことが重要と認識している。</p> <p>今後は本計画に基づき宇都宮市の緑化行政に努めていく。委員のみなさまに置かれましてもご指導ご鞭撻を賜りたい。</p>